

高知県感染症発生動向調査（週報）

2012年 第17週（4月23日～4月29日）

★ お知らせ

○ 水痘に気を付けて！

定点医療機関からの報告が定点当たり前週 1.73 から 3.10 と約 2 倍増加しました。感染力が強いため注意が必要です。

○ 伝染性紅斑に気を付けて！

定点医療機関からの報告が前週の 0.73 から 1.40 と約 2 倍増加しました。飛沫感染と接触感染なので手洗いがいを心がけ予防してください。

○ 感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告が定点当たり前週の 8.50 から 11.07 と約 1.5 倍増加しました。県外でも増加しているためまだまだ注意が必要です。帰宅後の手洗い、食事前やトイレ後は必ず手を洗い予防してください。

○ 百日咳に気を付けて！

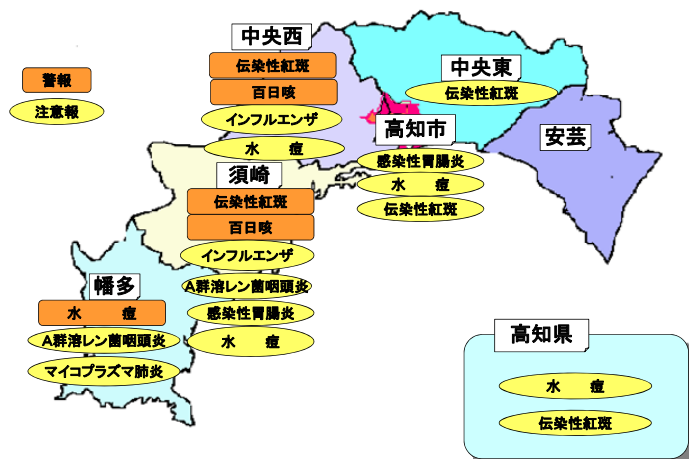
定点医療機関からの報告が前週の 0.23 から 0.40 に増加しました。感染力が強いため注意してください。

★ 県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数（人）	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	11.07	高知市、中央西、幡多、中央東では増加した。高知市、須崎では注意報値を超している。
インフルエンザ	→	5.21	須崎、安芸、中央西では増加した。中央西、須崎では意報値を超している。
水痘	↗	3.10	幡多、須崎、高知市、安芸、中央東では増加した。幡多では警報値を超している。高知市、須崎、中央西では注意報値を超している。流行のシーズンなので注意が必要。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.50	須崎、幡多では増加し注意報値を超している。流行のシーズンなので注意が必要。
伝染性紅斑	↗	1.40	須崎、中央西、高知市、幡多では増加し、須崎、中央西では警報値を超している。高知市、中央東では注意報値を超している。流行のシーズンなので注意が必要。

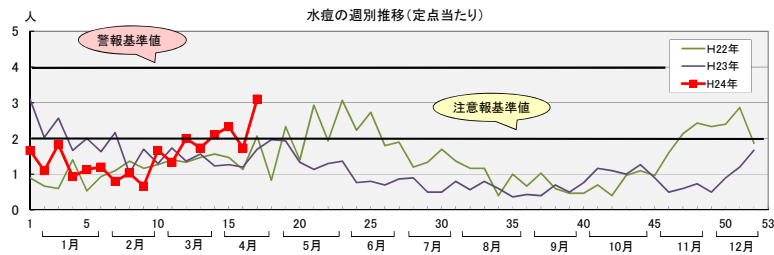
★ 地域別感染症発生状況



★ 気を付けて！

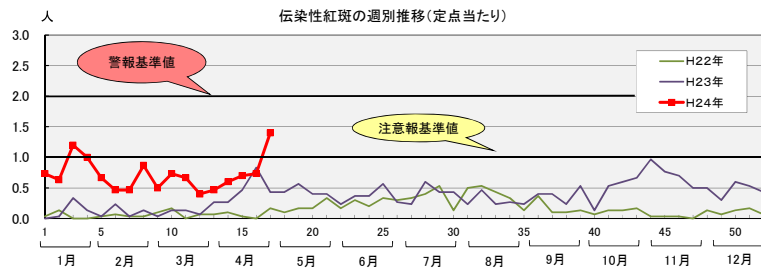
○ 水痘：3.10 （注意報値：2.00 警報値：4.00）

定点医療機関からの報告が定点当たり 3.10 と前週の 1.73 から増加し注意報値を超している。幡多では 6.00 と警報値を超している。須崎 3.00 高知市 3.82 中央西 2.00 では注意報値を超している。



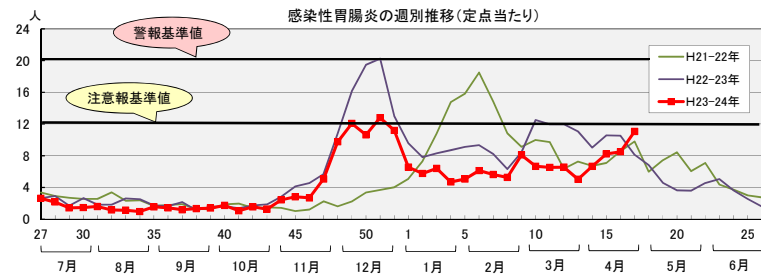
○ 伝染性紅斑：1.40 （注意報値：1.00 警報値：2.00）

定点医療機関からの報告が定点当たり 1.40 と前週の 0.73 から増加し注意報値を超している。須崎 2.50 中央西 2.33 と警報値を超している。高知市 1.82 中央東 1.00 では注意報値を超している。



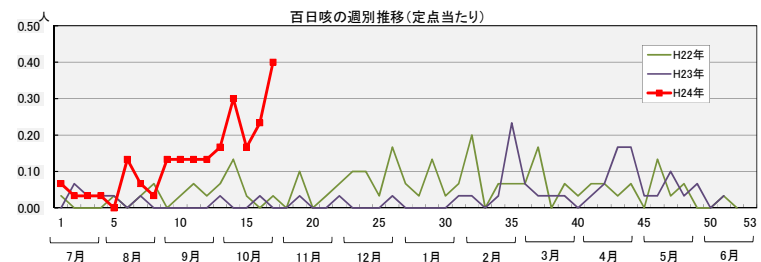
○ 感染性胃腸炎：11.07 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告が定点当たり 11.07 と前週の 8.50 から増加した。高知市、中央西、幡多、中央東で増加し、高知市、須崎では注意報値を超している。定点医療機関からの情報でロタウィルス感染が増加し、病原体定点からの検体からもロタウィルスが検出されているので注意して欲しい。外出後の手洗い、食事前やトイレ後の手洗いの励行を心がける必要がある。



○ 百日咳：0.40 （注意報値：0.60 警報値：1.00）

定点医療機関からの報告が定点当たり 0.40 と前週の 0.23 より増加した。中央西 2.33 須崎 1.50 と警報値を超している。病原体定点からの検体からも *Bordetella pertussis* が 2 例検出されている。感染力が強いので手洗いうがいをを行い予防して欲しい。



○ インフルエンザ：5.21 （注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告が定点当たり 5.21 と前週の 6.23 より減少した。しかし、中央西 13.20 須崎 12.25 と増加し、注意報値を超している。手洗いうがいの励行とともに、咳エチケットを心がける必要がある。



★ 病原体検出情報

前週搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
17	インフルエンザ	5	女	高知市	Influenza virus B NT
17	感染性胃腸炎	1	女	須崎市	Rotavirus group A NT
17	百日咳	38	女	須崎市	<i>Bordetella pertussis</i>
17	百日咳	10	女	須崎市	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
16	インフルエンザ	3	男	高知市	Influenza virus B/Yamagata
16	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	男	須崎	<i>Streptococcus pyogenes T1</i>

* 「保健所」について、患者の居住地を管轄する保健所名を記載する。

★ インフルエンザ迅速検査結果

保健所	A	B	A+B
安芸		15	
中央東		32	
高知市	2	63	
中央西	20	45	1
須崎		48	
幡多		9	
計	22	212	1

★ 全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結核	5	53	80 歳代 (女)	安芸
				90 歳代 (女)	中央東
				80 歳代 (男)	須崎
				70 歳代 (男)	高知市
				90 歳代 (男)	安芸
4 類	レジオネラ症	1	1	70 歳代 (女)	高知市

★ 定点医療機関からのホット情報 (インフルエンザ以外)

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	ロタウイルス感染症 2 例 (7 ヶ月、1 歳)
	高知大学医学部小児科	ロタ腸炎 (4 ヶ月男)
高知市	けら小児科 ・アレルギー科	病原性大腸菌 O-18 マイコプラズマ肺炎 2 例 (6、10 歳男) 百日咳 2 例母と娘 (42 歳女 東浜株×1280 山口株×2560、 16 歳女 東浜株×1280 山口株×320)
	ふないキッズクリニック	感染性胃腸炎ロタウイルスキット陽性 (2 歳男)
	細木病院小児科	ロタウイルス感染 11 例 (6、8、9 ヶ月男、1 歳女 4 名、2 歳 男女、4 歳男 2 名)
中央西	日高クリニック	アデノウイルス感染症 1 例 (1 歳男)
	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A+インフルエンザ B 1 例 (2 歳男)
須崎	もりはた小児科	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (1 歳男) ロタウイルスによる胃腸炎流行中
幡多	渭南病院小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (3 歳女)
	さたけ小児科	アデノウイルス感染症 1 例 (1 歳男)

★ 全国情報

第15週 (4/9～4/15)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核357例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症15例、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎3例、デング熱2例、レジオネラ症6例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎2例、急性脳炎3例、クリプトスポリジウム症1例

クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群9例、ジアルジア症2例、梅毒9例、破傷風2例、風しん4例、麻しん4例

報告遅れ：細菌性赤痢2例、パラチフス1例、E型肝炎1例、マラリア1例、レプトスピラ症1例、急性脳炎2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例

◆麻しん・風しん2012年第1～15週 (2012年4月18日現在)

2012年第1～15週 (2012年1月2日～4月15日診断のもの) に報告された麻しんは104例であり、昨年同時期よりもやや減少した。また、速報グラフ第15週 (以下速報) で示しているように、都道府県別の報告数は愛知県29例、東京都17例、千葉県11例、神奈川県8例、埼玉県6例の順であり、人口100万人当たり報告数で見ると、愛知県3.91、岡山県2.57、栃木県2.49、岐阜県2.40、山梨県2.32の順であった。一方、29道府県で報告がなかった。年齢群別の発生は昨年と同様の傾向で、0～1歳の症例が最も多いが、20歳以上の成人も全体の43% (45例) を占め、そのなかでは20代 (20例) と30代 (18例) が中心であった。ワクチン接種歴別報告数では、接種歴のない症例が41例 (39%) で最も多くを占めた。感染地域は国内が96例 (92%) と大半を占め、国外 (タイ3例、フィリピン1例、パキスタン1例) が5例、国内または国外 (ベトナム1例、英国1例、インド1例) が3例であった。今年の発生動向で特記すべきこととして、2009年以降報告のなかった麻しん脳炎の合併例が2例報告された。2008年および2012年に報告された麻しん脳炎症例は計11例で、そのうち10例では接種歴が無いまたは不明であった。年齢は1歳1例、10代2例、20代3例、30代3例、40代2例であり、20代以上の成人の症例が73% (8例/11例) であった。

風しんは2011年、全数報告疾患となった2008年以降では最も多い年間報告数 (374例、2012年4月18日現在) となった。さらに2012年第1～15週の累積報告数は122例であり、これは2011年の同時期の累積報告数 (67例) と比較して約2倍となった。都道府県別の報告数は兵庫県31例、大阪府28例、東京都15例、千葉県7例、京都府6例、神奈川県5例、福岡県4例の順であり、人口100万人当たり報告数で見ると、兵庫県5.55、大阪府3.16、京都府2.28、山形県1.71、滋賀県1.42、東京都1.14、千葉県1.13の順であった。男女別にみた年齢群別ワクチン接種歴別報告数では、男性94例 (77%)、女性28例で男性が女性の3倍以上報告されており、年齢については男性の年齢中央値33.0歳 (Q1-Q3*: 22.5-39.0)、女性の年齢中央値24.5歳 (Q1-Q3: 15.8-32.0) であった。20歳以上の男性 (76例) だけで報告数全体の62%を占めた。また、ワクチン接種歴については男女とも接種歴の無い症例が約30%であった。感染地域は全例が国内感染であった。

*第1四分位数 - 第3四分位数

麻しんは、かつてのようないわゆる子どもの感染症ではなく、年齢にかかわらず命に関わる重篤な疾患である。また、風しんは一般的には数日で治癒する予後良好な疾患ではあるが、麻しんと同様、成人での流行が発生しうる感染症であり、さらに風しんウイルス感染に生じる大きな問題として、先天性風しん症候群 (congenital rubella syndrome: CRS) がある。これは妊娠前半期の妊婦の感染により、風しんウイルスが胎児に感染し、先天異常を含む様々な症状を呈する症候群である。2011年には夫から感染したと思われる妊婦の風しん症例が複数報告されたが、今年は昨年を上回る発生状況であり引き続きCRSの発生するリスクが高い状態であることに注意が必要である。麻しん・風しんは、ともに特異的な治療法はないものの、予防接種で予防可能な感染症である。定期接種対象者である小児や中学1年相当・高校3年相当の年代 (2008～2012年の5年間のみ) の者に加え、麻しん・風しんの患者に接する機会がある医療従事者・教育福祉関係者をはじめ、海外渡航を予定している者、今後妊娠を希望する女性などの成人の方も、麻しん・風しんの罹患歴や接種歴がない、または不明な場合には積極的に予防接種を受けることを検討していただきたい。

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第17週 平成24年4月23日(月)～平成24年4月29日(日)

高知県衛生研究所

定点名	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(16週)	高知県(17週末累計) H24/1/2～H24/4/29	全国(16週末累計) H24/1/2～H24/4/22
ｲﾝﾌﾙｴﾝزا	ｲﾝﾌﾙｴﾝزا	17	40	69	66	49	9	250 (5.21)	299 (6.23)	26,395 (5.36)	16,172 (336.92)	1,580,610 (320.61)
小児科	眼 頭 結 膜 熱							()	1 (0.03)	777 (0.25)	26 (0.87)	11,545 (3.67)
	八群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎	2	9	16		4	14	45 (1.50)	45 (1.50)	6,398 (2.03)	925 (30.83)	99,602 (31.67)
	感 染 性 胃 腸 炎	13	37	189	18	32	43	332 (11.07)	255 (8.50)	33,249 (10.56)	3,387 (112.90)	411,128 (130.72)
	水 痘	3	6	42	6	6	30	93 (3.10)	52 (1.73)	3,414 (1.08)	791 (26.37)	75,559 (24.03)
	手 足 口 病						1	1 (0.03)	1 (0.03)	351 (0.11)	14 (0.47)	6,036 (1.92)
	伝 染 性 紅 斑	1	7	20	7	5	2	42 (1.40)	22 (0.73)	515 (0.16)	367 (12.23)	9,364 (2.98)
	突 発 性 発 疹		1	8		1	3	13 (0.43)	8 (0.27)	1,861 (0.59)	187 (6.23)	24,120 (7.67)
	百 日 咳			2	7	3		12 (0.40)	7 (0.23)	82 (0.03)	67 (2.23)	957 (0.30)
	ヘルパンギーナ			2				2 (0.07)	()	136 (0.04)	13 (0.43)	976 (0.31)
	流行性耳下腺炎		1	4		1	3	9 (0.30)	24 (0.80)	1,312 (0.42)	348 (11.60)	24,979 (7.94)
RSウイルス感染症			1				1 (0.03)	1 (0.03)	666 (0.21)	609 (20.30)	22,281 (7.08)	
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	12 (0.02)	()	178 (0.26)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	301 (0.44)	14 (4.67)	5,647 (8.32)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.13)	()	8 (0.02)	5 (0.71)	128 (0.28)
	無菌性髄膜炎							()	()	10 (0.02)	9 (1.29)	194 (0.42)
	マイコプラズマ肺炎			1			1	2 (0.25)	3 (0.38)	365 (0.79)	46 (6.57)	6,090 (13.10)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	17 (0.04)	1 (0.14)	211 (0.45)
計 (小児科定点当たり人数)	36 (13.75)	101 (12.36)	356 (30.12)	104 (25.86)	102 (38.75)	105 (20.13)	804 (23.54)			75,869	22,981 (561.38)	2,279,605
前週 (小児科定点当たり人数)	29 (13.25)	98 (11.82)	322 (25.43)	95 (23.00)	82 (32.25)	93 (16.45)		719 (20.08)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	保健所 疾病名	第17週							計	前週	全国(16週)	高知県(17週末累計) H24/1/2～H24/4/29	全国(16週末累計) H24/1/2～H24/4/22
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
ｲﾝﾌﾙｴﾝزا	ｲﾝﾌﾙｴﾝزا	4.25	3.64	4.31	13.20	12.25	1.13	5.21	6.23	5.36	336.92	320.61	
小児科	眼 頭 結 膜 熱								0.03	0.25	0.87	3.67	
	八群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎	1.00	1.29	1.45		2.00	2.80	1.50	1.50	2.03	30.83	31.67	
	感 染 性 胃 腸 炎	6.50	5.29	17.18	6.00	16.00	8.60	11.07	8.50	10.56	112.90	130.72	
	水 痘	1.50	0.86	3.82	2.00	3.00	6.00	3.10	1.73	1.08	26.37	24.03	
	手 足 口 病					0.50		0.03	0.03	0.11	0.47	1.92	
	伝 染 性 紅 斑	0.50	1.00	1.82	2.33	2.50	0.40	1.40	0.73	0.16	12.23	2.98	
	突 発 性 発 疹		0.14	0.73		0.50	0.60	0.43	0.27	0.59	6.23	7.67	
	百 日 咳			0.18	2.33	1.50		0.40	0.23	0.03	2.23	0.30	
	ヘルパンギーナ			0.18				0.07		0.04	0.43	0.31	
	流行性耳下腺炎		0.14	0.36		0.50	0.60	0.30	0.80	0.42	11.60	7.94	
RSウイルス感染症			0.09				0.03	0.03	0.21	20.30	7.08		
眼科	急性出血性結膜炎									0.02		0.26	
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.44	4.67	8.32	
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.13		0.02	0.71	0.28	
	無菌性髄膜炎									0.02	1.29	0.42	
	マイコプラズマ肺炎			0.20			1.00	0.25	0.38	0.79	6.57	13.10	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.04	0.14	0.45	
計 (小児科定点当たり人数)	13.75	12.36	30.12	25.86	38.75	20.13	23.54			561.38			
前週 (小児科定点当たり人数)	13.25	11.82	25.43	23.00	32.25	16.45		20.08					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869